

Radio On The Street  
西谷文和

# 路上のラジオ

ファンクラブニュース

2026.3.25  
第28号

発行責任者：西谷文和

連絡先：〒564-0041 大阪府吹田市泉町1-22-33

TEL 06-6170-4757

メール otayori@radiostreet.net

このニュースは募金いただいた方、講演会に参加された方に郵送  
しています。今後も年に4回程度発行します。

## ●ラジオの聞き方

スマホやパソコンで「路上のラジオ」と検索して  
ください。YouTubeで聞けます。  
チャンネル登録していただきますと、毎回お知らせ  
が来るので便利です。

# 今すぐイラン戦争を止めよう

## この戦争の背景とイスラエル、アメリカの思惑

### 交渉中だったのに

今年2月28日、イランとアメリカが核問題で交渉をしている最中に戦争が始まった。その前日、オマーンの仲介で進んでいた交渉は「イランが相当に譲歩」した形で、円満解決の方向を示していた。

アメリカとイスラエルは交渉を嘲笑うかのように、テヘランを空爆した。

なぜか？ その日、最高指導者のハメネイ師が政権幹部を集めて邸宅で会議をする、という情報をCIAがつかんで（おそらくモサドと共同した諜報活動があったと思う）ネタニヤフに報告。すぐに彼がイスラエル空軍を出動させ、戦闘機で空爆して暗殺したのだ。

### その気になればいつでも殺せる

イスラエルはすでにこの数年間で、テヘランの幹線道路や商店街に設置された監視カメラをハッキング、さらにはイラン政府幹部の携帯電話に忍び込んで彼らの行動

様式を把握し、政権内部にスパイを送り込み、詳細な内部情報をつかんでいた。ネタニヤフは昨年、「その気になればいつでもハメネイ師を殺すことができる」とうそぶいていた。ハメネイ師の行動パターンを完全に把握していたからこそ、初日に暗殺できたのだと思われる。

### 女子小学生が殺された

この日はアメリカ軍もイラン各地を空爆した。中でも南部ホルムズ海峡に面したミナブ市の女子小学校を空爆して少なくとも175名の児童を殺害した。とんでもない戦争犯罪である。アメリカ軍は「誤爆」と言い、トランプ大統領は「イランが爆撃した」とウソをついているが、間違いなくアメリカのトマホークで爆破されたのである。報道によれば、古い地図ではそこが軍事施設となっていた、と言いついてはいる。今やAIが爆撃地点を判断する時代だ。なぜ古いデータで空爆したのか？ こ



カタールパンツを履いた「ネタニヤフおじさん」。鼻が伸びている

れは大量殺人である。

### カタールゲートとは？

ではなぜこのタイミングで無法で無謀な戦争を始めたのだろうか？

まずイスラエル側の視点から見てもみよう。今年1月にテルアビブで反ネタニヤフ集会を取材したが、そこで目立ったのは「カタールのパンツを履いたネタニヤフおじさん」だった。カタールの民族衣装を着てドルの札束を広げながら



ドルの札束を広げた「カタールおばさん」。  
昨年までは見られなかった光景

「ネタニヤフはカタールの金をハマスに流していたのよ」と訴える「カタールおばさん」もいた。ピントの衣装を揃えた一段が「カタールゲート」と書いたプラカードを持っていった。

今や「カタールゲート」はイスラエル人の中で有名な疑獄事件となっている。ネタニヤフ首相は秘密裏にカタールの金をイスラエル経由でハマスに送り、ハマスを育てて小規模なテロを起こさせていたのだ。イスラエル兵士が5名殺されたとする、「テロを鎮圧する」という名目でガザ戦争を仕掛け、殺された兵士の約100倍、500名ほどのガザの人々を殺した上で停戦、これを繰り返していたのだ。

## 敵はもっと近くに置け

ネタニヤフは19年から汚職で訴追されていて、警察に何度も事情聴取を受けている。裁判も続行中だ。その取り調べの際、監視カメラで撮影された映像が内部告発で流出して、それが映画「ネタニヤフ調査」になっている。

取り調べの中でネタニヤフ自身が「友は近くに置け、敵はもっと近くに置け」という映画「ゴッドファーザー」で有名なセリフを口にして、いつでも戦争ができる状態にして、イスラエルがガザの人々を虐殺。「2〜3ヶ月で戦争に勝利」すれば、「強い首相」として支持率が高まって長期政権を維持できるという仕組みだ。08年、14年、21年、ずっとこれを繰り返してきた。今や多くのイスラエル人がこの仕組みに気がついていて。次こそはネタニヤフを選ばない、という人が増えた。イスラエルでは遅くても今年10月には総選挙になる。これに負けて首相の座から滑り落ちれば監獄行きだ。

## 今回は金を送り返した

だから今回もハマスのテロを起こさせて戦争に持っていかねばならない。今回はカタールの金だけ

ではなく、ネタニヤフ政権からも資金を送った。しかし今回は「金を送り返した」のだ。ハマスは強くなりすぎた。

23年10月7日、ハマスの戦闘員約3千名が最新の機関銃を手にして壁を乗り越え、ロケット弾500〜600発を一斉に砲撃した結果、1200名を超える死者を出してしまった。

当時私はなぜハマスがこれほどの大部隊を率いるとこができたのか、不思議だったが、謎が解けた。カタールとネタニヤフの金で、ハマスは巨大化していたのだ。

## 方針転換してジェノサイド

予想以上の反撃を受けたネタニヤフはここで戦略を転換する。ハマセン滅作戦という大掛かりなガザ皆殺し戦争になり、今も戦争が継続中だ。なぜならネタニヤフは戦争を続けて国家を非常事態にして、首相の座にいなければ（戦争中は首相でいられる）ダメなので、ガザの次はレバノンのヒズボラ、たまにイエメンのフーシ派を空爆しながら、次は…。

## 最終目的はイランだった

イランだった。悲しいことにこのイラン戦争、イスラエル人の約80%が支持している。「イラン戦

争に勝利した」という図式にしてから、総選挙に踏み切るつもりだろう。しかし、こんな嘘にいつまでも騙されない人々も増えてきた。「ネタニヤフおじさん」の登場が象徴的だ。

## トランプ側から見てみると

次にアメリカ側から見てみよう。間違いなくトランプ大統領に「ベネズエラの成功体験」があった。他国に軍事攻撃をかけてトップを逮捕し、短期で戦争を終わらせながら体制を転換して、石油利権も手中に収める。これに成功したのである。

しかしイランは違う。強固な軍隊と官僚組織、そしてイスラム的精神支配があり、イランを攻撃すればその報復で世界が大混乱することになり、気がついていなかったのだ。

第1次トランプ政権と違って、今や周囲はイエスマンばかり。誰もトランプを止めることができないという極めて危険な政権になってしまった。

## スキヤンダルで窮地に

そしてエプスタイン文書が出た。小児性愛者で児童売春を繰り返してきたエプスタインとトランプは非常に親密だった。これは決定的なスキヤンダルで、これを隠すためにはより強力な何か、つまりベ

ネズエラに続き、イランに戦争を仕掛けて、国民の目を逸らさねばならない。理不尽な空爆で殺されてしまった1300名以上のイラン民衆、そして報復攻撃で被害されたイスラエルはじめアラブ諸国の人々が気の毒でならない。「バカな大将、敵より怖い」と言われるが、まさに今がその状態だ。

**この3人はそっくり**

トランプとネタニヤフ、そして高市は似ている。まず「平気でウソがつける」こと、そして「ウソをついてもドギマギせずに開き直れる胆力(＝面の皮の厚さ)」。

決定的な共通点は、「愛国心を謳いながら、敵に取り込まれているアホさ加減」。

**「愛国心」を強調する売国奴**

イスラエルをハマスから守れ!と叫んでいたネタニヤフが、そのテロ集団を支援している売国奴だった。

ロシアのウクライナ侵略を許すな、と叫ぶべきアメリカの大統領領が、モスクワにトランプタワーを建てようとしていた不動産王で、フロリダのトランプタワーが赤字になった時、そこを借りてくれていたのがロシアのオリガルヒ(新興財閥)だった。

日本を強く、という首相が、「日

本はサタンの国、だから信者からの金を巻き上げて韓国へ」と行動していた統一協会を応援し、持ちつ持たれつの関係だった。そのTMM文書に32回も名前が出ていたので、やばいと感じて国会を解散し、まゝまゝと首相の座を安泰にした。有権者がもつと早くこの自作自演に気が付かねばならなかった。

**自民・維新連立の高市政権は案外早く崩壊する？**

戦争は儲かるし、権力者は戦争によつて一時的に保護される、これは大手メディアでは滅多に報道されず、学校では教えてくれないが、間違いなく「歴史の法則」なのだ。ミニコミラジオではあるが、引き続き「戦争の裏にある真実」を報道していきたい。

(この記事含め本文敬称略)

「SUTを落とさないとダメなんだ」。評論家の佐高信さんがよくこのフレーズを口にする。SII世襲、UII裏金、TII統一協会。石破内閣では、裏金議員は公認されず、比例復活もできなかったが、今回は「みそぎが済んだ」とばかりに多くが自民党の公認を受けて立候補、小選挙区で当選してしまった。象徴的だったのが裏金を机に隠し、統一協会に選挙をさせた上に、マカオカジノで接待を受けていた「八王子ポーク」こと萩生田光一議員の当選だ。ダメどころや。開票速報を見てやけ酒をあおっていたのだが、後日冷静に得票数を分析すると結局は「800万の岩盤

保守票」が動いただけ、だということがわかる。(詳細は富田宏治教授との対談、第274回をお聞きください) 一見すると高市内閣は安泰に見える。今後4年は衆議院を解散せず、「悪夢の安倍政権」をさらに極右化した「アメリカのための戦争準備内閣」になる可能性が高い。しかしアベ以上に危なくアベ以上に暴走する高市は、案外どこかで決定的なボロが出て倒れる日が早いのかも知れない。

今回出てきたのが「サナエトクン」。高市首相のイラストを載せて、「Japan is Back」プロジェクト。誰もが高市首相が

進める暗号資産だと錯覚する宣伝を繰り返して、少なくとも人々がこのトクンを購入した。騒ぎが大きくなった後で高市首相は「このトクンについて私は全く存じ上げませんし、私の事務所側も、当該トクンがどのようなものなのか知らされておりません。(後略)」と釈明した。この釈明の途端、トクンが暴落し、大損する人が続出した。

このトクン、25年に報道会社を買収し、YOUTUBEで「ノーボーダー」という番組を始めた溝口勇児氏が仕掛けたもの。暗号資産の交換業者は金融庁に登録しておかねばならないが、どうも無許可でやっていたらしい。彼は3月10日に謝罪しているが、こんな怪しい人物が進める怪しい暗号通貨に、首相がもし関わっていたのなら大問題だ。首相は「事務所も知らされていない」と釈明しているが、公設第一秘書の木村氏と溝口氏とのやりとりがラインに残っているのだから、「事務所が知らなかった」というのはウソになる。そう、この騒動もSUTIIサナエ、ウソ、トクンである。

高市内閣がスキャンダルで倒れるより、維新が倒れる方が早いかもしれない。今や都構想をめぐって「大阪市議団+松井一郎VS

### 編集長より

いつも「路上のラジオ」をこ愛聴くださりありがとうございます。私の好物は蓮天（レンコンの天ぷら）でして、よく自分でも作ります。揚げたての蓮天にお塩をちよんと付けてはふはふといただき、こちらも大好きな辛口の白ワインできゅっと喉を通せば、もう至福のひとときが訪れます。

その蓮天、子供たちにも小さい頃からよく作って食べさせていたのですが、嫁に行つた娘が先日遊びに帰って来たときに、久々に作ってやりました。娘曰く「私が作ってもこうはならない。父が作ってくれたのが一番おいしい。」と。

憎いこと言うじゃないと思いましたが、プロが作ったものより、愛する人の料理の方をおいしく感じるといった研究結果は当たり前にあるらしく、何でも「自分のために手間暇かけて作ってくれた」と認識することで、脳内でドーパミンやセロトニンといった幸せホルモンが分泌されるとのこと。また精神論だけではなく、愛する人への料理を作るなら、知らず知らずにも丁寧なひと手間をかけるからだとともに言います。

さて、最近の日本。強く勇ましくなる必要があるようですが、国民が汗水流して納めた税金で武器

や戦闘機を超爆買いし、原発を再稼働させ核をつくり、その先には憲法改悪そして徴兵ですか？ やさしくしなやかな感情が連鎖すれば、豊かな国になれると思うのは夢想家の言うことでしょうか？ コロナ禍でロックダウンしたニュージールランドで、母として幼児を育てながら穏やかにやさしく Stay Home を呼び掛け続けたアーダーン首相を思い出しました。そのニュージールランドという国は、過去には先住民民族マオリとの悲しい争いの歴史があっても和解し、世界からの移民が集い、公用語は英語の他マオリ語、そして

手話。平和を好む多民族国家なのです。リーダーが発するメッセージはとても重要です。この壊れかけたポンコツ日本において必要なのは、互いを慮る「やさしい力」が自ずと湧くような政治、なのではないでしょうか？

愛する娘は、どんなに腕のいいシェフよりも不器用な私の揚げる天ぷらが何よりおいしいと言ってくれる。勝ち負けの勝負ではない、それは互いの愛であり尊敬であり、だから平和な時が生まれるのです。戦争はいけません。夢想家でしょうか？

(制作スタッフ・山本 索)

大阪府議団「吉村洋文」のような内部分裂、ヤクザの抗争のような事態になっていて、在阪メディアでさえも「吉村さん、嫌いになった」という街の声を報道するほど。そう、ピンチはチャンスなのかも知れない。イラン戦争に反対せず、アメリカにどこまでも従っていく高市内閣に対して、国会前では「戦争するな」のデモ隊が押し寄せている。そろそろみんな権力者のウソに気がつきはじめている。15年安保法制の時は、20万人が国会を包囲したが、強行採決された。2度目はどうか？「蟹工船」のラスト、立ち上がった労働者は、1度は鎮圧されるが2度目に勝利する。あきらめずに、粘り強く戦いたい。

### 緊急出版

## 「なぜ中東で戦争が終わらないのか」 イラン、パレスチナ、イスラエル、 シリアの現場から

かもがわ出版社からこの春に上梓します。イラン戦争が始まったので急ぎよイランに駐在していた毎日新聞鶴塚健さんとの対談を冒頭に入れました。ガザや西岸の現状、なぜシリアのアサド政権が崩壊したのか、国連まで破壊する今のネタニヤフ政権、そんな戦争内閣に抵抗するイスラエルの人々。巻末にはイスラエル人の平和活動家 ダニー・ネフセタイさんとの対談を収録しました。

**3月末予約販売スタート**

### 編集後記

このラジオを始めもうすぐ丸7年。2014年から15年にかけて第2次アベ政権が大手メディアに圧力をかけた結果、「9条を守れ」「原発をゼロに」などを主張する大学教授や元官僚、評論家やジャーナリストが次々とテレビや新聞から干されてしまい、硬派の報道番組が骨抜きになって、今や「大手メディアはバラエティーかスポーツ」のような状態になりました。そんな時期に始めたので、「テレビから干された人々」がこのラジオに快く出演してくださいました。残念ながら高市内閣でメディアにはもっと圧力が強まっていくでしょう。首相自身が総務大臣時代に、「気に入らないテレビは電波を止める」といった張本人です。だからこそ今後もスポンサー企業を持たず、「何の忖度も自粛もタブーもなく」進めていきます。みなさまからの支援だけで頑張りますので、引き続きよろしくようお願い申し上げます。